

平成30年度
第1回南相馬市環境回復推進委員会
会議録

南相馬市環境回復推進委員会

第 15 卷

中華民國 35 年 10 月 1 日出版

第 15 卷

中華民國 35 年 10 月 1 日出版

平成30年度 第1回 南相馬市環境回復推進委員会 会議録

会議の名称	第1回 南相馬市環境回復推進委員会				
開催日時	平成30年7月2日(月) 10時45分開会・12時00分				
開催場所	南相馬市役所2階 正庁				
議長	児玉龍彦				
出席状況 委員 9名 オブザーバー 1名 門馬市長 事務局 7名 農林整備課 2名 計 19名 凡例 ○ 出席 一 欠席	区分	所属	役職	氏名	出欠
	委員	東京大学	先端科学技術研究センター プロジェクトリーダー	児玉龍彦	○
		東京大学	大学院農学生命科学研究科 名誉教授	塩沢昌	○
		日本原子力 研究開発機構	福島研究開発部門 福島環境安全センター長	宮原要	○
		日本原子力 学会	福島特別プロジェクト代表	井上正	○
		農業・食品 産業技術総合 研究機構	本部企画調整部 震災復興研 究統括監付 農業環境変動研究センター 環境情報基盤研究領域 上級研究員	万福裕造	○
		南相馬市	復興企画部長	庄子まゆみ	○
		南相馬市	総務部長	石川浩一	○
		南相馬市	市民生活部長	佐藤幸雄	○
	南相馬市	経済部長	植松宏行	○	
オブザーバー	東京大学	アイソトープ総合センター 助教	杉山暁	○	

1. 開会

2. 委嘱状交付

新たな任期における第1回目の委員会となることから、市長より委員に対し委嘱状を交付。

3. 市長挨拶

本日は、南相馬市環境回復推進委員会に、公私ともにお忙しい中ご出席を賜り、心から御礼を申し上げます。

皆様には、本委員会委員への御委嘱を致しましたところ、ご快諾を賜りましたこと、重ねて御礼を申し上げます。

さて、東日本大震災から7年の月日が経過した。市の復興状況であるが、旧避難指示区域内の小高区および原町区の居住人口は、平成30年5月30日現在で3,252人となり、同区域内の住民登録人口(9,136人)に占める居住率は35.6パーセントまで回復した。

また、平成30年産米の作付面積は、約2,511haの見込みとなり、前年の約2,186haから、約325ha増となる見込み。

これらの復興の進捗につきましては、宅地や農地除染における委員の皆様の御尽力の賜物であると考えている。

除染関係については、20km圏外の除染で発生した可燃性廃棄物を、小高区蛭沢にある、仮設焼却施設で、減容化できるよう地元や関係者と協議を行っている。

また、本日の議題でもあるが、里山再生モデル事業の実施や学校等の除染で発生した除去土壌等の、仮置場への輸送を予定。各事業について、放射性物質への不安が懸念されることから、各工程について、委員の皆様からご助言等を賜りたい。

引き続き委員の皆様の一層のご指導とご支援を切にお願い申し上げます、あいさつとする。

※別件公務のため、市長退席

4. 委員長選出

南相馬市環境回復委員会設置要綱第5条第1項の規定により、委員の互選により選出し、児玉龍彦氏を委員長に選出。

5. 委員長挨拶

市長から話があったが、震災と原発事故から7年の月日が経過した。一番大きい問題は、事故前よりも更に良い環境を作る必要がある。若い人がハツラツと生活する南相馬市を創る必要がある。

森林公園が住民にとって憩いの場になるには、除染だけではなく、前よりも魅力的なものにする必要がある。

学校もただ単に輸送するよりも、父兄や園児・児童が南相馬で良かったと思われることが大事。

皆様の活発な意見に期待する。

6. 議長選出

南相馬市環境回復推進委員会 設置要綱第5条2項の規定より委員長を議長とする。

7. 欠席通告

なし

8. 会期の決定、会議録署名委員・書記の指名

会期：本日 1 日

会議録署名人：塩沢委員、庄子委員

書記：事務局環境回復推進課 蒔田副主査

9. 議事

9-1. 里山再生モデル事業について

- ・市農林整備課より、資料 1-1、資料 1-2 及び資料 1-3 に基づいて説明。

(児玉委員長)

国見山公園は、事故前はどのように利用されていたのか。

(市農林整備課)

森林公園として市民に親しまれていた。具体的には植樹のイベントや愛護会などが年に数回ほど登山をしていた。

(児玉委員長)

今後の利用について、具体的なイメージがあるのか。

(市農林整備課)

現在は、法面や道路が崩落・陥没しており、立ち入りを制限している。震災前のような賑わいがある森林公園としたい。

(児玉委員長)

森林公園の広さはどのくらいか。

(市農林整備課)

全体面積で約 39ha ほどになる。

(児玉委員長)

魅力は、森林浴か、他にもあるのか。

(市農林整備課)

登山する人も多かった。

(塩沢委員)

頂上までは車で行けるのか。また、登山時間は。

(経済部長)

頂上まではいけない。駐車場から歩いていく。登山時間は1時間位。

(塩沢委員)

小学生が遠足など利用したことはあったのか。

(市農林整備課)

あった。

(井上委員)

福島県の環境審査会の案件であるが、八木沢あたりで風力発電の計画がある。この付近でも計画があるのか。

また、風力発電の計画がある場合、敷設道路等で木を伐採する必要があるが、市として関りや承知しているのか。

(復興企画部長)

阿武隈山系の飯舘・原町間の山頂部で計画があること、環境アセスメントに着手したことを承知しているが、林道や森林の伐採の後処理など事業者から市に計画書等は提出されていない。

(井上委員)

事業者からは、関係市町村と連携を取ると聞いている。

景観の面からも、風車位置も確認しておく必要がある。

(復興企画部長)

検証や事業者と意見交換をする必要がある。やはり林道の設置が課題と考える。

(井上委員)

工事や開発をすると、木やリター層（土）が出るので、処理について考えていく必要がある。

(宮原委員)

国の考えだと、里山と奥山の考え方がある。

今回は里山だが、今後は奥山の間伐も必要になってくる。今回のモデル事業での間伐規模はどのくらいか。

(市農林整備課)

間伐の規模については、これから検討をしていく。

(万福委員)

除染の中でリター層を1cm程度取るとあるが、資料を見ると効果が小さい印象であり、丁寧にやる必要がある。

また、環境省は、里山再生モデル事業について目標値を設定していないが、市の事業であることから、目標として概算値など設定してもいい。しかしながら、目標値を設定すると数字を出すことになるので対応が難しくなる恐れがある。

なお、飯館村、南相馬市と関係する風力発電事業は、両自治体の情報交換を実施して頂き、森林等の開発行爲も関係してくるため、慎重に進めて頂きたい。

(総務部長)

国見山は、登山客や子供たちが遊んでいた場所である。モデル事業で一定の効果が出れば市民も安心するので期待する。

(児玉委員長)

最初から目標値を設定すると、ハードルが高くなる。予算がつけば手を付けていくと考える。

(万福委員)

目標値を公表しなくても、いずれ話題になる。飯館村でもモデル事業を行っているが、結果は厳しい印象だ。

(塩沢委員)

登山道の足元を除染しても、空間線量にはあまり影響がない。例えば昼食を食べる場所などを重点的に除染した方が良い。また各地点の平均空間線量率よりは積算線量の方が市民には分かり易い。

(市民生活部長)

モデル事業であることから、広く全県的に行われるかは分からない。南相馬市には「懸の森(かけのもり)」もあるので、他の里山にも広がることで震災前に戻ることを期待する。

(児玉委員長)

今まで手が付けられていなかった場所を除染しているので、他にない事業である。国見山以外にも他に場所があるなら、次に手を広げていくべきである。

他に意見がなければ、里山再生モデル事業の議題を終了し、公共施設に埋設されてい

る除去土壌等の対応について議題を行う。

9-2. 公共施設に埋設されている除去土壌等の対応について

・事務局より、資料2に基づいて説明。

(塩沢委員)

埋設されているものを掘り起こす必要はないと考える。しかし掘り起こす場合でも特に心配はないと考える。水にも影響が出るとは考えにくい。

(井上委員)

放射線的には、将来に影響がでるとは考えにくい。しかし、お子さんをもつ住民からみて安心が得られるなら、やらざるを得ないかと思う。現状に戻すだけでなく、少し付加価値を付けた方が良く考える。

(事務局)

環境省には付加価値について相談しているが、現状では交付金の取り扱いは難しいと言われている。

(児玉委員長)

環境省で難しいなら、市でなにか考えてみても良いのでは。なにかプラスにした方が市としても子供が魅力を感じる配慮があっても良いと考える。

(復興企画部長)

財源の問題もあるが、市内には20校弱の学校がある。他に良いものがないか検討していきたい。

(児玉委員長)

小さい幼稚園などは、囲いなどに時間をかけずに、速やかに。また冬の風の強い時期は、土埃が舞い上がることも心配されるので、仮囲いを使ってみる配慮が必要。

一つは安心のために運びだす、もう一つは子供たちが喜ぶような価値をつければ、理解を得られやすい。

(宮原委員)

除染を行っており、粉塵に線量が高いものがあるとは考えにくいですが、袋詰め時の粉塵対策について詳しく聞きたい。

(事務局)

学校等の下に埋まっているものは、袋詰めされておらず、遮水シートに包まった状態。

袋詰め時も散水を行うなど粉塵対策を行いたい。

(児玉委員長)

無駄に見える面もあるし、複雑な面もある。今年度の事業をやってみて、一旦振り返り、メリット、デメリットを整理し、子供や親、市民にとって、どういうプラスがあったか知るいい機会と捉えるべきである。学校や親の意見を聞きながら、きめ細かくやっていく。再評価をしながら進めていくことが肝要である。

(万福委員)

すごく丁寧な対応と思える。線量的には問題がないと認識しているが、関係者への説明等の対応・反応を知りたい。

(事務局)

粉塵に対して敏感になっているところが危惧されている。そのため粉塵対策に力点をおいている。

(児玉委員長)

掘り出した除去物をフレコンに入れて、遮蔽されていない校庭等に置いておくと環境負荷になる。ここがポイントになる。

(事務局)

1,000袋以上ある場合は、校庭から中間貯蔵施設へ運ぶことも可能であった。しかし、学校等の園児・児童等に配慮し、校庭等に一時置きしておくことは避けたいと考えており、一旦、仮置場に輸送する。

(万福委員)

福島市の対応を見ていると、輸送をした後の方が大変と聞く。水が溜まるとか地面が下がるなどを聞いている。

(塩沢委員)

客観的、科学的に見れば全く無意味な事業だが、気持ちの問題。気持ちの問題であるが、論理的に整合性を取る必要がある。50年後、100年後に埋めた場所が忘れられて掘り起こしてしまったなども考えられ、掘り起こせばその心配はなくなる。

(総務部長)

市民からの立場をみれば、使えない期間がどの位なのかと、また委員長も言っているとおり、やることが前提ではなく、評価しながら進めていく必要がある。

(児玉委員長)

まずはやってみて、評価するのが大事。

(市民生活部長)

公共施設ということで、学校ばかりではなく公園等も行う。今回の事業結果を公表していくことが必要。

(児玉委員長)

実際に掘り起こして、経験を積んでいく。何が成果だったのか。そして地域の住民にとって何が良かったかを検証し、次につなげていく。

現在、校庭等が使えない期間はどのくらいなのか。

(事務局)

4カ月から5カ月を見ている。かなり長い期間である。予算については9月議会に計上し、少なくとも卒園・卒業式までには終わらせる予定。

(塩沢委員)

かなり長い期間である。

(事務局)

初めての事業であることから、長めに見ている。

(塩沢先生)

分散して行うより、集中して行った方が良いのではないか。

(事務局)

幼稚園は、1カ月程度を見込んでいる。小学校については、除去物量も多く、仮囲いも設置するので、長期間かかる見込み。

(経済部長)

限られた期間の中で、効率良く運搬するモデル工法・事業でもあると考える。

(児玉委員長)

モデル事業の側面もある。

(事務局)

スタンダードなモデルの確立でもありますが、検証を重ねることで対応していく。

(児玉委員長)

それでは、公共施設からの除去物の輸送についての議題を終了する。
その他について、事務局から何かあるか。

(事務局)

事務局から次回の委員会開催と午後の予定について説明。

(児玉委員長)

幼稚園に埋設したときは、私も関わっており、幼稚園の工事が始まった際には個人的に伺いたい。

風力発電の話など、メールを使った意見交換なども行いたいと考える。
他の委員の皆様のご協力を頂きたい。

9-3. 中間貯蔵施設視察後の意見交換

(受け入れ分別施設の概要説明、土壌貯蔵施設の現場視察を終えて)

(児玉委員長)

次回は、中間貯蔵施設の全体の方針・計画について説明いただける方に参加いただくと有効な議論ができる。

視察を終えてみて、用地取得や施設としては問題がない。

(塩沢委員)

除去土壌等の濃度は、仮置場のタグ情報を活用して行っており、データが活用されている。

(井上委員)

6万m³を貯蔵している現場をみたが、適切に処理をしている。

(宮原委員)

前処理の全自動化など進んでいる印象である。ただ環境省は、再生利用を考えているが、計画を見ると大熊工区などで1,000万m³近くを貯蔵する。再生利用する際は、掘り起こすのか等、再生利用と貯蔵施設との絡みなど全体戦略を環境省に聞いてみたい。

(復興企画部長)

今回で2回目だが、前回と説明される方と違ったのもあるが、今回の説明を受けても良く分からないというのが本音。

ただ、視察をすると一年前と比べて着実に進んでいるのが分かった。

(児玉委員長)

30年後の県外移設の約束が、作業工程からは見えない。

(市民生活部長)

私は、初めて来たがどこが中間貯蔵施設なのか、周りにある施設がどのような役割を果たしているか分からなかった。

(児玉委員長)

百聞は一見にしかずで、色々と分かった点もあると思う。

現実的に、中間貯蔵施設への輸送が軌道に乗ってきた後は、帰還困難区域や森林への対応がメインになると考える。

市のこれからの魅力ある街づくりや、市民の希望に合わせた環境回復が大事になってくる。市長も言っていたが、焼却処理については市民の意見を聞きながらに進めていった方が良い。

(宮原委員)

市の方も考え方が色々あると思うが、再生利用については、環境省との関係が重要と思う。我々は技術的な支援になる。

(児玉委員長)

市側の委員から環境回復についてなにかあるか。

(復興企画部長)

環境に関しては、第2ステージに入った。放射線量については、関心が下がってきた印象だが、一部の方は今まで以上に関心がある人もいる。情報の出し方について、先生方にご相談していきたい。

(児玉委員長)

市として、若い人に魅力ある環境を再興から再生に知恵を出す必要がある。若い人がいないと将来が厳しい面もあり一体的に扱っていく必要がある。

(総務部長)

線量に対する不安がまだある。特に社会的地位が高い人の発言を信じてしまうこともある。分かり易い情報の出し方を継続して行っていく必要がある。

減少人口は、県内59市町村で下から6番目である。いかに増やすかが大事であり、柔軟な施策が必要。

(児玉委員長)

里山再生モデル事業などで不安を解消し、戻れる人は戻る。高い箇所を着実に下げていく。行政としては現実を対応していく必要がある。

(市民生活部長)

午前中の委員会でもあったように、20km圏外の除染廃棄物の焼却について、今後、説明会を開く。市もなるべく早く仮置場の解消のため進めていく。

一方で、今回の中間貯蔵施設を見ると双葉町・大熊町の人に相当、負担をかけていると感じる。

(児玉委員長)

現在の双葉町はどうなっているのか。

(事務局)

復興拠点整備事業で駅前の除染やインフラ整備を行っていく。

(市民生活部長)

双葉町の30年後を考えると、各市町村から除去物を輸送することで、簡単に仮置場の早期解消とは言えないと施設を見て感じる。

(児玉委員長)

濃縮を行えば、小さくなる。濃縮作業ができれば、県外への運び出しもできる。

(井上委員)

話は変わるが、現在の南相馬市のフォローアップ除染の状況はどうなっているか。

(事務局)

環境省には、線量等で区別をせず全ての事後モニタリング結果を提出し、現場確認を経て、昨年度で130件のフォローアップ除染を行った。

現在は、フォローアップ除染の対象がないという認識であり、除染実施計画上では、昨年度で終了している。

(児玉委員長)

市の事故前の環境を目指す。制度上の計画は終わったとしても、住民にとっては関係ない。現在は里山除染を行っており、次は森林等に順次移っていく。一度に全てをやるのは難しい。

事務局から他になにかあるか。

(事務局)

今日は、先生方から貴重なご意見を賜った。意見を整理して今後とも進めていく。

(児玉委員長)

東京でも色々な方と話すと、南相馬市を応援したいという人は沢山いる。

今までは南相馬は応援して貰う立場だった。中間貯蔵施設が建設されている双葉町や大熊町について、浜通り全体で考えていく時期かと思う。

本日はこれをもって終了する。ありがとうございました。

9. 閉会

会 議 録 の 確 定

平成 30 年 8 月 14 日

会議録署名人

塩沢 昌



庄子 柳み

